

本年度の海外視察は、3年前から毎年実施しているタイ、インドネシアに続いて、フィリピンの国際ロータリー第 3860 地区（セブ島）を視察いたしました。2008 年 5 月 15 日～18 日の 4 日間、同地区の WCS プロジェクトを実際に現地で直接、確認するとともに同地区の多くのロータリアンと友好を深めました。当地区からは、平原ガバナー、小島パストガバナーをはじめ、17クラブ43名が参加しました。



フィリピンが抱えている問題は、水管理、識字、保健・飢餓問題に至るま



で、WCS が取り組んでいる支援活動と大きな関わりをもっています。当地区からも、各クラブが、これまで水対策や生活環境の改善、人口問題、医療・出産・健康管理、孤児問題、就業問題など多くの WCS プロジェクトに取り組んできました。特に今回は、第 3860 地区が全体で取り組んでいる「100万本のマングローブ植林プロジェクト」と第 3860 地区の 8クラブから支援要請があり、当地区の 9クラブが支援した各プロジェクトを中心に視察致しました。



フィリピンでは、最近の世界異常

気象による被害の最大国の一つで、嵐や洪水によって多くの死者が出るなど何億円にも相当する被害が出ました。マングローブは、沿岸地域の環境を守る上で重要な役割を果たしています。しかし、年々、魚やエビの養殖用生簀、塩田、それに埋め立てや工業地に転用のた



めに伐採され、その面積は減るばかりです。セブ地域に残っているマングローブの森の面積も非常に少なくなっています。私たちはこのマングローブの再生に取り組むロータリアンとともに植林現場を見ました。マングローブの繁殖



している地域は、海産物食料を手に入る上で非常に重要な場所となっています。多くの周辺住民は生活の糧を失い貧困に喘いでいます。私たちは環境問題を単に地球温暖化といった大きな問題意識だけでなく、貧困の中で自然と直接関わり、生活している人たちを見ることで、あらためて、このプロジェクトの重要性を認識しました。



さらに、今回の支援プロジェクトでは8グループに分かれ、現地8クラブのプロジェクトを視察しました。①セントラル マクタンRCの身障者就業支援等プロジェクト(御坊東RC支援)②マクタンRCの託児所支援、井戸・給水、貧民街の就業・医療支援プロジェクト(新宮RC支援)③バニラドメトロRCの貧困地域の職業(縫製・ミシン)支援プロジェクト(御坊RC支援)④マンダウエノースRCの山岳地域の井戸給水、小学校の教育支援プロジェクト(高野山RC・堺泉ヶ丘RC支援)⑤マンダ



ウエイストRCの身障児の車椅子、レイテ医療支援プロジェクト(海南東RC支援)⑥メトロマンダウエ 2006RCの貧困者の医療(白内障手術等)支援プロジェクト(りんくう泉佐野RC支援)⑦メトロセブRCの離島の照明設備等支援プロジェクト(海南西RC支援)⑧コンソレーションRCの山岳地域の採水、ろ過、貯水タンク等の水支援プロジェクト(有田 2000RC支援)です。各グループは、朝から夕方まで、現地ロータリアンと一緒にプロ

ジェクト現場を訪ね、プロジェクトの説明と受けました。総合的に感じたことはフィリピンにおける社会情勢から、多くの問題を抱えており、プロジェクトは一つにとどまらず、あらゆる角度からの支援がロータリーに求められていることです。このため、各クラブから要請があったプロジェクト以外にも現地のクラブでは、多くの支援、奉仕活動を展開しており、現在進行中や未完了のプロジェクトが山積していました。訪問したクラブのメンバー数は概ね約20名~30名のところが殆どで、少ないメンバー数の中で、RC C(ロータリ地域社会共同体)と協力し、活動しています。フィリピンは70%以上の国民が貧困層といわれています。政府、地方行政の施策や対策、社会整備の立ち遅れも問題です。その結果、貧しく困っている人たちは後を絶たず、悪純化に陥っています。こうした状況の中でも、現地のロータリーは、地道に支援活動に取り組んでいます。



また、今回、出会ったフィリピンの子供たちは、笑顔を絶やさず、たくましく生きている姿が印象的でした。私たちは直接、目にすることはありませんでしたが、貧しさゆえに親に捨てられた多くのストリートチルドレンが存在することも事実です。一方、私たちが宿泊したホテルは国際的な観光リゾート地で、きれいなビーチやレストラン、娯楽施設がある快適なところでした。自由時間のショッピングも近代的な巨大ショッピングモールでした。何れも、WC Sの視察地で見えた貧困家庭の集落やスラム街とは別世界です。また、視察中は、白バイの先導による送迎。スケジュール時間の遅れや現地とのコミュニケーション不足から視察後の友好合同例会が、なんと地区PET前夜祭への特別参加になるなど、いろいろなハプニングもありました。

今回の海外視察を通して我々は、同じロータリアンとして、フィリピンが抱えている多くの問題点を認識しました。また、日本との大きなギャップも感じました。そして、これからの現地のWC Sの取り組みも非常に険しく、長い取り組みになると痛感しました。最後にこの視察によって、直接、プロジェクト現場に赴き、自分自身が見聞きし、肌で感じたことで、ロータリーが展開するWC S活動の必要性をあらためて再確認した次第です。参加者のみなさん、お疲れ様でした。そして、今回も皆様のご協力によって、無事に海外視察を終えられましたことに感謝申し上げます。今後もWC S活動に格別のご理解とご協力をお願いします。

今回の海外視察を通して我々は、同じロータリアンとして、フィリピンが抱えている多くの問題点を認識しました。また、日本との大きなギャップも感じました。そして、これからの現地のWC Sの取り組みも非常に険しく、長い取り組みになると痛感しました。最後にこの視察によって、直接、プロジェクト現場に赴き、自分自身が見聞きし、肌で感じたことで、ロータリーが展開するWC S活動の必要性をあらためて再確認した次第です。参加者のみなさん、お疲れ様でした。そして、今回も皆様のご協力によって、無事に海外視察を終えられましたことに感謝申し上げます。今後もWC S活動に格別のご理解とご協力をお願いします。